



みなさま。ごきげんよう！

あいにくの冷たい雨が続きますね。

暖かくしてすごしてくださいね。

今日は、みなさまに情報提供の御願いです。

一昨日、ロシアから、アレキサンドル・フィルキンさんがハリストス正教会の児玉司教さまと一緒に御来店くださいました。

彼は、日露戦争当時、明治 37~38 年頃に仙台に滞在していた 2000 人を越えるロシア人捕虜と仙台市民との交流等について情報を求めています。

何でもその当時の日本軍も仙台市民も捕虜を厚遇していたのだそうです。

ホームページの「曾祖父について」というページをご覧になるとお分かりいただけると思うのですが、曾祖父が経営していた、その当時仙台に 2 軒しかなかったカフェには、ロシア人の捕虜がたくさんいらしていたそうです。

私の大叔父は、その時にロシア軍の士官から弦楽器やハーモニカを教えてもらったことがきっかけで海軍の音楽隊に入隊し、昭和天皇と船でヨーロッパを巡り、戦後は NHK 交響楽団でコントラバス奏者をしていました。

そんなことから、その当時めずらしかった異人さんとの交流はたくさんの方の人生に大きな影響を及ぼしたのでは…と推測しています。

でも残念なことに、その事を知っている方はなかなかいらっしゃらないのです。

河北新報などには記録はあるのですが、一般の方で何か資料などお持ちの方や先祖の方からお話を

聞いている方はいらっしゃいませんか？

せっかくロシアからいらしたのに、そのカフェも仙台の空襲で全焼したため、お店の外観の写真位しか残っていないのです。

もし、お心当たりのある方、ぜひご連絡下さいませ。

<http://www.bon-voyage2014.com>

[info@bon-voyage2014.com](mailto:info@bon-voyage2014.com)